

校長先生のあのね帳 8月3日(月) NO.133

変わるもの・変わらないこと

8月に入りました。梅雨明けは例年よりもずいぶん遅くなりましたが、7月号でお話ししたセミの鳴き声もようやく聞こえてくるようになりました。学校は8月7日に終業式を迎えます。そして、8日からは子どもたちが待ちに待った夏休みになります。今年は17日までの10日間ですから昨年までの過ごし方とはずいぶん違った毎日になることと思います。健康面に十分気を付けて、元気に生活してほしいと願っています。

新型コロナウイルスに関連して、いわゆる「新しい生活様式」が推奨されていますが、現在の生活様式と比べて新しいということで、いずれ「新しい」は「ふつう」になります。そして、何十年後かはわかりませんが、次の新「新しい生活様式」に取って代わられるでしょう。そのようなことを考えていたときに、昔々勉強した「方丈記」(鴨長明)の書き出しを思い出しました。

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。
淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。
世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。
行く川の流れは絶えなくて、それでいて(そこにある水は)もとの水ではない。
淀みに浮かぶあわは、一方では消え、一方ではまた出来て、長くとどまっている例はない。
この世にいる人間と住処とが、やはりこのようなものである。

たしかに、現在の状況を広く見渡してみますと、変わっていくことや変えていくものはあります。

けれども、「誰にとって、何が(なぜ)必要か」を考えることの大切さは変わりませんし、変えてはいけないものだと思えます。

誰にとっての部分には立場によって人それぞれでしょうが、学校と子どもたちを預かる校長の立場から言いますと、それは「子ども first」です。もう少し詳しく言うと、私(校長)が第一に大事にしたいことは

『子どもの命・心・健康・笑顔』です。

この異例づくしの数か月間で、子どもたちは心身ともに疲れています。短い夏休みですが英気を養い、元気いっぱいいつもの子どもたちになって2学期初日(8月18日)を迎えてください。満面の笑みの子どもたちに会えることを楽しみにしながら、1学期最後の学校だより(8月号)の筆をおきます。

※(学校だより 8月号から)